

マイタウンガイド

—桂城地区編—



今回ご案内する桂城地区は、市役所、郵便局、裁判所、法務局、労働基準監督署などが建ち並ぶ三ノ丸一帯の官庁街や大町、田町などの商店街をかかえる十九の町内から成っています。
「桂城」の名は、戊辰戦争の際に焼失した大館城の別称「桂城」に由来すると言われています。この跡地は現在、市民の憩いの場「桂城公園」として親しまれています。

▲恒例の“大館さくらまつり”でにぎわう桂城公園

曹洞宗、本山は永平寺と総持寺。中世比内の豪族浅利家の牌所。同寺によると永禄七年(一五六四)十二月二十五日、元領主浅利与市則頼の命で鳳凰山の山すそ(寺跡あり)に一寺を建立。松原補陀寺九世草菴守瑞が開山、慶長年間現在地に移りました。大館では最古の寺院で、檀家も最多です。
同寺には独鈷浅利三代、すなわち初代則頼、三代勝頼、四代頼平の位牌がありますが、二代則祐だけが欠けています。これは、則祐と不和だった弟勝頼が過去帳から抹殺させたためといわれています。
また、同寺には昭和五十九年十二月に市の文化財に指定された「延命地藏菩薩」が安置されています。この菩薩は、ヒノキの寄木づくりで、高さ四七・五寸、すそ幅一五寸、奥行一四寸です。固く漆を置いて金箔をかさね、その上に極彩に色どりをなし、さらに切金を置いて

たずね歩き

玉林寺と延命地藏菩薩



▲玉林寺の山門



▲延命地藏菩薩

ており、室町桃山時代の技法とみられています。
浅利家滅亡後、浅利三代の位牌を表むき供養できなかった時代にあつては、この「延命地藏菩薩」の礼拝をもって浅利三代の供養をしたといわれています。

— 8月1日から31日までは飲酒運転追放県民運動強調月間です。—
飲酒運転は絶対にやめましょう!